

CASBEE[®] 新築[簡易版]

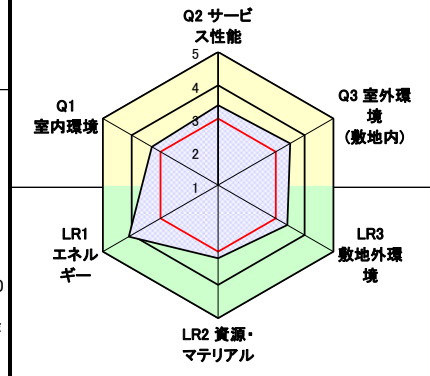
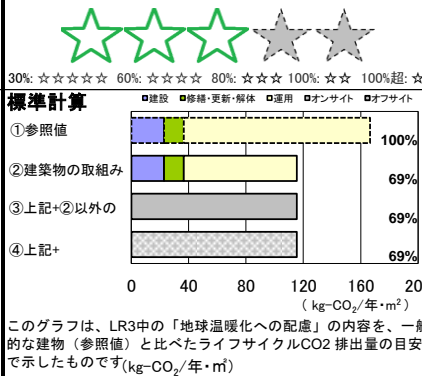
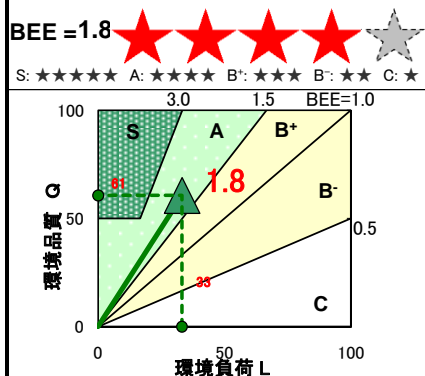
評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

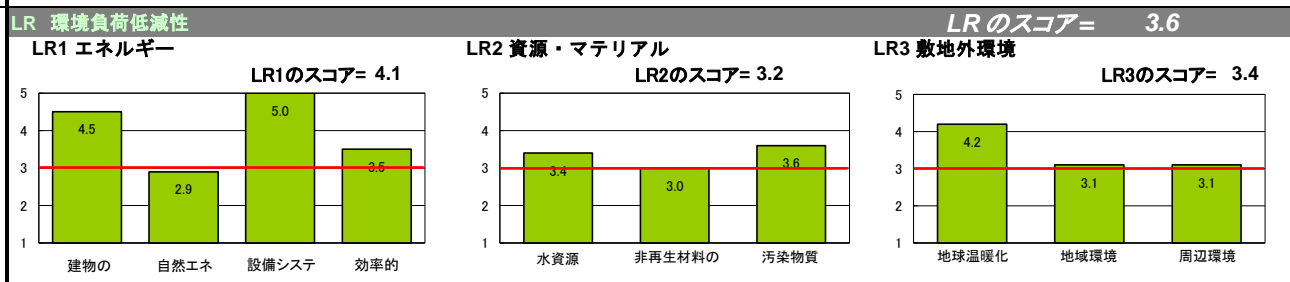
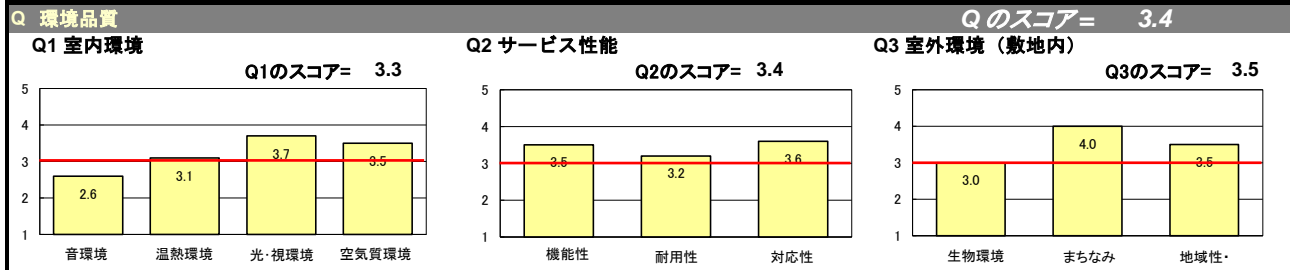
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	茅ヶ崎駅ビル	階数	地上7F
建設地	神奈川県茅ヶ崎市元町5672番の2の	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,000 人
気候区分		年間使用時間	4,350 時間/年
建物用途	物販店、飲食店、集会所、等	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2015年10月20日
敷地面積	9,621 m ²	作成者	㈱JRE設計
建築面積	3,037 m ²	確認日	2015年10月30日
延床面積	10,412 m ²	確認者	東日本旅客鉄道㈱



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
地域・駅・駅ビルとの共生。南北の街の流動性を高めることで、駅周辺の活性化に寄与するものと考えます。	省エネを考慮し、LED照明の積極的な採用。	
Q1 室内環境 空調及び照明は、ゾーン・店舗ごとに運転制御が可能ないように計画。	Q2 サービス性能 外装材は、耐久性のある「押型成形セメント板」を採用し、維持管理に配慮。設備計画は、維持管理・更新が容易なように計画。	Q3 室外環境(敷地内) 地域と共生できるよう、導線を計画。屋上には緑化を設置し、まちなみ・景観に配慮。
LR1 エネルギー 空調換気設備には、インバータ内蔵の機器を積極的に採用。設備全般を中央監視室で運転管理することで、効率的に運用。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓等節水機器・有害物質を含まない材料を積極的に採用。設備全般は躯体・仕上げに大きな支障なく、メンテナンスが可能ないように計画。	LR3 敷地外環境 周辺環境を考慮した設備機器・後方施設の配置を計画。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される